

その夜に

離すことなくたずさえていた
その手は
豊かな昨日を語ることも
愛しみの明日をかきたてることもせず
ただ、いま、在ること

毎秒ごとに
消えてはうかぶ瞬き
その頬に
金色に輝く
白いベールがふりそそぐまで
ただ、いま、在ること

藍